

平成23年度事業報告

(平成23年4月1日－平成24年3月31日)

I. 会員数 (平成24年3月31日)

(1) 名誉会員	5名
(2) 正会員	
平成23年3月31日会員数	1,153名
平成23年度新入会員数	106名
平成23年度退会者数	119名
内訳 希望退会者	118名
物故者	1名
正会員現在数	1,140名 (13名減)
(3) 維持会員	
平成23年3月31日維持会員数	100社
平成23年度入会社数	2社
平成23年度退会社数	9社
維持会員現在数	93社 (7社減)

II. 機関誌送本および販売数

(1) 送本数	会員区分	送本数
国内	名誉会員	20冊
	正会員	2,545冊
	維持会員	987冊
国外	正会員	8冊
	小計	3,560冊
(2) 販売数		198冊
(3) 贈呈数	箇所数	送本数
国内	12	44冊
国外	53	208冊
	小計	252冊
合計機関誌送本数		4,010冊 (1842冊減)
(4) その他		
機関誌を広告代理店に提供、バックナンバーとして販売。残部は在庫。		

III. 第 58 回通常総会

開催年月日： 平成 23 年 5 月 26 日

開催場所： タワーホール船堀

IV. 理事会、評議員会

(1) 理事会 2 回開催

① 定例 開催年月日： 平成 23 年 5 月 24 日

開催場所： タワーホール船堀

② 定例 開催年月日： 平成 23 年 11 月 21 日

開催場所： タワーホール船堀

(2) 評議員会 1 回開催

開催年月日： 平成 23 年 5 月 24 日

開催場所： タワーホール船堀

V. 定期学術集会の開催

第 58 回日本実験動物学会総会を下記のとおり開催した。

会 期： 平成 23 年 5 月 25 日（水）～27 日（金）

会 場： タワーホール船堀

会 長： 米川博通（(財) 東京都医学総合研究所）

参加者： 1,073 名

VI. 定期刊行物の発行

「Experimental Animals」および「実験動物ニュース」を下記のとおり発行し、会員に希望配布した。

発行年月日	巻	号	備考
平成 23 年 4 月 1 日	60	2	
平成 23 年 5 月 1 日	60	3	サブリメント号（電子配信）
平成 23 年 7 月 1 日	60	4	
平成 23 年 10 月 1 日	60	5	
平成 24 年 1 月 1 日	61	1	

VII. 研究の奨励、業績の表彰

(1) 第 23 回学会賞受賞者を表彰した。

1) 功労賞（1 名）

玉置憲一

2) 奨励賞（2 名）

本多 新（理化学研究所バイオリソースセンター）

「実験動物の新規幹細胞の樹立技術と利用法の開発」

高林秀次（浜松医科大学）

「クローズドコロニーICR 系統からの自然発症変異マウスの開発研究」

3) 2010 年 Experimental Animals 最優秀論文賞

石飛博之、松本 健、浅見拓哉、伊東史子、伊東 進、高橋 智、依馬正次

「Flk1-GFP BAC トランスジェニックマウス：血管発生研究のための動物モデル」

(2) 2010 年日本実験動物学会国際賞の表彰を行った。

受賞者（5名）

中国 : Bai Yu

台湾 : Chin-Yu Lin

韓国 : Sung-Dae Cho

インド : Rahul Anandrao Thorat

タイ : Chadamas Promkum

(3) 第24回学会賞受賞者を選考した。

1) 功労賞（2名）

朱宮正剛

西村正彦

2) 安東・田嶋賞（1名）

岩倉洋一郎（東京大学医科学研究所システム疾患モデル研究センター）

「発生工学手法による疾患モデルの作製と発症機構の解析」

3) 奨励賞（1名）

竹尾 透（熊本大学生命資源研究・支援センター）

「C57BL/6 マウス精子の凍結保存に関する研究」

4) 2011 年 Experimental Animals 最優秀論文賞（2編）

庫本高志、桑村 充、田上 史、真下知士、能勢真人、芹川忠夫

「ENU ミュータジェネシス由来の Kyoto rhino ラットは先天性脱毛と巣状糸球体硬化症を示す」

奥村 仁、宮坂勇輝、森田由香、野村智幸、三嶋行雄、高橋 姿、木南 凌

「Bcl11b ヘテロ遺伝子型はマウスに加齢性難聴と蝸牛外有毛細胞の変性をもたらす」

(4) 2011 年日本実験動物学会国際賞受賞者を選考した。

受賞者（7名）

中国 : Xu Lili

台湾 : Ming-Hong Lin

韓国 : Eui Suk Jeong

マレーシア	: Hafandi bin Ahmad
フィリピン	: Frances Margarete Tamayo
シンガポール	: Shih Wee Seow
タイ	: Panan Suntornsarattoon

VIII. 研究・調査活動

編集委員会、学術集会委員会、財務特別委員会、国際交流委員会、広報委員会、疾患モデル委員会、動物福祉・倫理委員会、定款・細則・規程等検討委員会、実験動物感染症対策委員会、教育研修委員会、動物アレルギー検討ワーキンググループ、新公益法人化検討ワーキンググループ、実験動物調査ワーキンググループ、産業技術問題検討ワーキンググループを設置し、活動を行った。

IX. 関連学協会との連携

- (1) 日本学術会議の活動に協力した。
- (2) 国内の関連学会・協会と学術・情報交換を進め、その活動に協力した。
- (3) 国際実験動物科学会議 (ICLAS) およびアジア実験動物学会連合 (AFLAS) の事業に協力した。
- (4) 米国実験動物学会 (AALAS) など、海外関連学協会との学術・情報交流をした。
- (5) 公益財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンターおよび日本動物実験代替法評価センターの活動に協力した。

X. その他

- (1) 平成 23 年度維持会員懇談会を実施した。(財務特別委員会担当)

「医薬品開発のイノベーションを目指してー動物モデルから新評価技術の導入までー」

平成 23 年 11 月 21 日、タワーホール船堀、参加者：64 名
- (2) 第 4 回疾患モデルシンポジウムを開催した。(疾患モデル委員会担当)

「がん研究のモデル動物」

平成 23 年 11 月 11 日、吉田富三記念講堂 (財団法人がん研究会がん研究所)、参加者：52 名
- (3) 第 58 回総会期間中に 4 つの LAS セミナーを開催した。(教育研修委員会担当)
 - ① 微生物モニタリング
 - ② 胚・精子の凍結保存
 - ③ 命名規約
 - ④ 実験動物の麻酔

(参加者合計：125 名)
- (4) Guide for the Care and Use of Laboratory Animals 第 8 版の監訳を行った。

- (5) 公益社団法人への移行作業を行った。(新公益法人化検討ワーキンググループ)
- (6) 動物の福祉及び動物実験に関する法令対応セミナーを開催した。(動物福祉・倫理委員会／産業技術問題検討ワーキンググループ)

平成 23 年 4 月 15 日 福岡 九州大学医学部

平成 23 年 4 月 19 日 京都 京都府立医科大学

平成 23 年 5 月 24 日 東京 タワーホール船堀

平成 23 年 9 月 20 日、伊那 信州大学農学部

(参加者合計：634 名)